

あいさつする児玉センター長



日本福祉大学の研究拠点・ウェルビーイング工学研究センターと同大学の産学交流拠点・スタートアップセンターは20日、名古屋市昭和区の「ステーションAi(エーアイ)」で、シンポジウム「ウェルビーイング・フォー・オールの実現に向けて」を自主支援のためのテクノロジーと社会実装」を開催した。両拠点の開設を記念して実施。50人が参加した。

(半田)

冒頭、児玉善郎日本福祉大学ウェルビーイング工学研究センター長は「当研究拠点は、ウェルビーイング(心身の健康や幸福)と工学を掛け合わせ、さらに本学の多様な学部の教員が連携して研究を進めていく。ステーションAi内に開設することで、民間事業者を含む多様な方々との共創を生み出していきたい。当シンポジウムを、皆さまと共にウェルビーイング工学を

冒頭、児玉善郎日本福祉大学ウェルビーイング工学研究センター長は「当研究拠点は、ウェルビーイング(心身の健康や幸福)と工学を掛け合わせ、さらに本学の多様な学部の教員が連携して研究を進めていく。ステーションAi内に開設することで、民間事業者を含む多様な方々との共創を生み出していきたい。当シンポジウムを、皆さまと共にウェルビーイング工学を

ウェルビーイングを考える

日福大 ステーションAiでシンポ

みに転換すべきだ」と指摘。「福祉機器を使った後の生活をイメージできるように適切に説明し、利用者に選択権を与えることが重要だ」と話した。

また、KT福祉環境研究所の松尾清美所長が「企業や福祉施設等との共同研究・開発に求められること、リハエンジニアとして、企業との機器開発に携わってきた経験から」をテーマに、開発事例を紹介しながら、開発機器の使用評価モニタリングの状況などを紹介した。

講演後、大橋氏と松尾氏、児玉氏が登壇し、パネルディスカッションを実施。モデレーターは、同ウェルビーイング工学研究センターの渡辺崇史幹事が務めた。